

問われる信頼性カバーとVoIP対応 SIが悩むインターネットVPN構築法

ブロードバンドの普及に伴い、企業から熱い視線を集めているインターネットVPN。信頼性の欠如という最大の弱点をいかに攻略していくか。SIの力量が問われている。

IPsec等の暗号化技術を用いて、公衆網であるインターネットをあたかも専用線のように使うことを可能にするインターネットVPN。昨年から企業ネットワーク構築の有力な手段として急速にクローズアップされ始めている。

その最大の理由は、ADSLやFTTH等のブロードバンドサービスの普及だ。

従来の回線サービスの10分の1以下の低料金ながら1.5～100Mbpsという広帯域通信が可能となるブロードバンドサービスは、ネットワークの高速化と同時にコスト削減も実現できる。

こうしたメリットを受け、従来、専

用線やフレームリレーサービスなどを活用してきた企業がインターネットVPNにリプレースする事例が増えている。

特にインターネットVPNを好意的に受け入れているのが、中小企業だ。

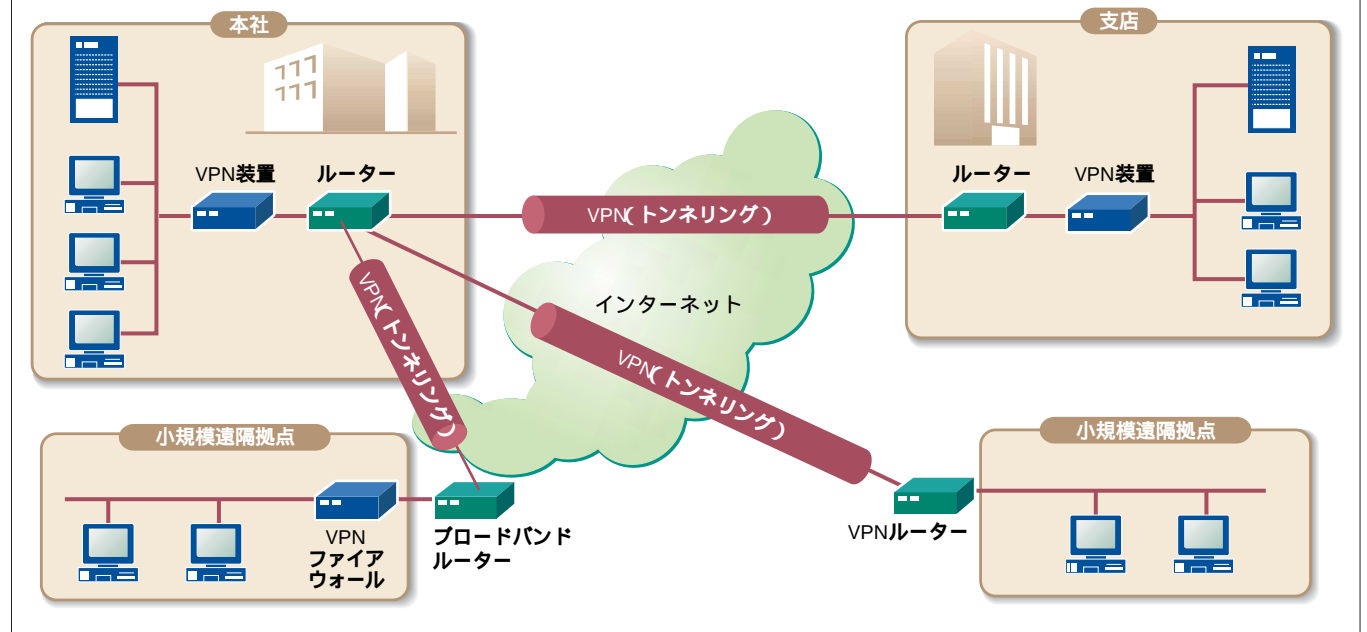
ネットワークの高速化の手段には、IP-VPNや広域イーサネットサービス等も登場しているが、大企業のように拠点数も多くなくかつ十分な設備投資が行えない中小企業にとって、まだまだ料金的に割高感が否めない。

NECシステム建設・ネットワークシステム事業部ネットワークシステム部の今井忠章主任は、「これまで64kbpsや128kbps等の低速専用線

を使っていたユーザーが帯域幅を増強する手段として、ADSLやFTTHを用いたインターネットVPNを選択するケースが増えてきた」と語る。「確かにIP-VPNや広域イーサネットサービスのほうが品質的には優れているが、そこまで回線にコストをかけられないユーザーは多い。インターネットVPNはそうしたユーザーのニーズに最も合致する」。

また、最近では中小企業だけでなく、大企業でも、これまで予算の関係からダイヤルアップやISDNを用いて接続していた小規模拠点との接続にインターネットVPNを採用するケースが増えている。全国に数百を超える小規模拠点を抱える小売業や

図1 インターネットVPN接続の例 ——拠点間接続——



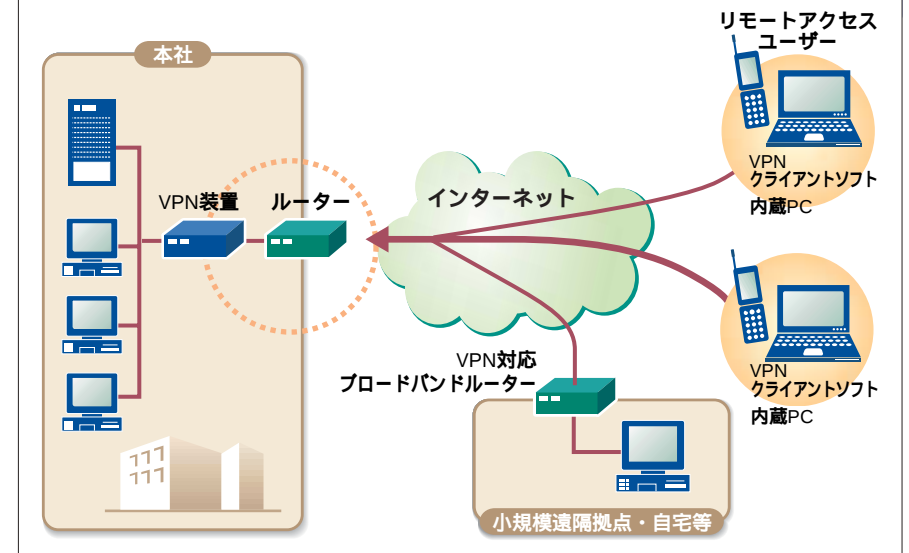
流通業のほか、保守・メンテナンス業での導入が顕著だ。

拠点間接続だけでなく、モバイル通信を利用したリモートアクセスの分野でも盛んに導入されている。

NEC・企業第一ソリューション事業部販売促進部の北風二郎マネージャーは、「インターネットVPNを利用したモバイルアクセスに対する需要は大手製造業を中心に非常に増えている。外出が多い営業マンだけではなく、客先で業務を行っている開発者が、自社のイントラネットへアクセスする等、さまざまな用途で活用が進んでいる」と語る。

さらに、広域イーサネットやIP-VPNをメイン回線にしなが、インターネットVPNをバックアップ回線に使用したり、コスト削減のために

図2 インターネットVPN接続の例 ——リモートアクセス——



メイン回線として利用する大手企業も現われており、その活用領域は広がりをみせている。

しかしインターネットVPNは、中継網にインターネットを使用するた

め、IP-VPNや広域イーサネットと違い十分な信頼性が確保できないというウィークポイントも持つ。ネットマークス・インターネットソリューション事業部技術室の山岡立弥氏が、「大